

100年後も

昭和村が

昭和村であるために



The Future  
of SHOWA

概要版

## 第6次昭和村振興計画 後期計画

昭和村で「こちよく」暮らす を実現するために

令和8年度から令和12年度の5年間の計画期間とする村の最上位計画である「第6次昭和村振興計画 後期計画」を策定しましたので、その概要をお知らせします。

福島県昭和村



# なぜ、いま振興計画が必要なのか

## 01 時代の転換点

人口減少・少子高齢化の進行に加え、災害の激甚化、社会構造の変化、価値観の多様化など、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。

デジタル化の進展やエネルギー問題など、社会はこれまでにないスピードで変化しており、地域に求められる役割も変わりつつあります。

## 02 昭和村の現状

本村においても、人口減少や担い手不足、集落機能の低下などの課題が顕在化しています。

これまで移住促進などに取り組んできましたが、定着には課題があり、従来の手法だけでは持続的な地域づくりが難しくなっています。

## 03 求められる考え方の変化

これからは、単に人を「増やす」だけでなく、多様な形で地域に関わる人を増やし、地域全体で支え合う仕組みをつくることが重要です。

また、限られた資源の中で、優先順位を明確にしながら、効果的・効率的な取組が求められています。

## 04 この計画の役割

こうした背景を踏まえ、昭和村がこれからも持続的に発展していくための指針として、本計画を策定しました。

変化の時代においても、昭和村らしさを大切にしながら、次世代へとつなぐ村づくりを進めていきます。

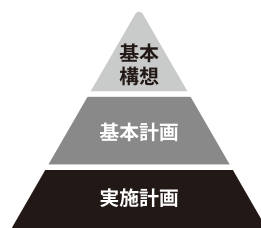
## 05 計画の進捗管理と検証

本計画は、毎年度の進捗状況を把握し、指標(KPI)に基づく検証を行いながら、継続的な改善(CAPD)を実施します。

また、村民アンケート等を通じて、住民の意見や満足度を把握し、データと対話に基づく、実効性のある計画運営を行います。

## 振興計画とは？

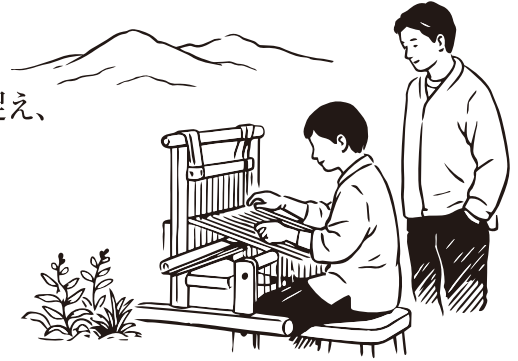
第6次昭和村振興計画は本村の最上位計画で、10年間を期間とする「基本構想」。前期と後期の5年間ずつの基本計画、そして実施計画で構成されます。今回は、基本計画と実施計画の見直しを行っています。



# 村の哲学

## オンリーワンという選択

昭和村は、ナンバーワンを目指すのではなく、オンリーワンを目指してきました。それは、他地域と競争するのではなく、この地域にしかない価値を見つめ続けるという選択です。からむし織に代表される伝統、自然環境、地域のつながり。それら一つひとつを「地域の宝」として捉え、磨き続けること。そして、時代の変化の中でも、挑戦することをやめないこと。それが、昭和村の「村の哲学」です。



## 昭和村で「こちよく」暮らす

多様な価値観やライフスタイルを尊重し、それぞれが自分なりの「心地よさ」を感じながら暮らせる村を目指します。

誰一人取り残されることなく、「安心して暮らす」「いきいきと生きる」といった多様な幸せが共存し、すべての村民が「てえらな心」を大切にしながら、心穏やかに暮らせる村を実現します。

目指す将来像

基本方針

協創・共助

村民・地域団体・事業者・行政が連携し、それぞれの役割と責任を担いながら、共助による協創の仕組みで地域課題の解決を図ります。

持続可能

次世代へ村をつなぐため、環境への配慮や地域資源の活用を進めるとともに、人的・労力的負担の軽減を図りながら、持続可能な村づくりを推進します。

# 避けては通れない人口減少 でも、諦めない。 人口減少を緩やかに、 関わる人を着実に増やす

人口減少が進むことで、地域の担い手不足や活気の低下、集落の維持が難しくなることが懸念されています。

本村では、これまで村外から人を呼び込む取組により、人口減少の抑制を図ってきましたが、移住の定着は容易ではなく、大きな課題となっています。

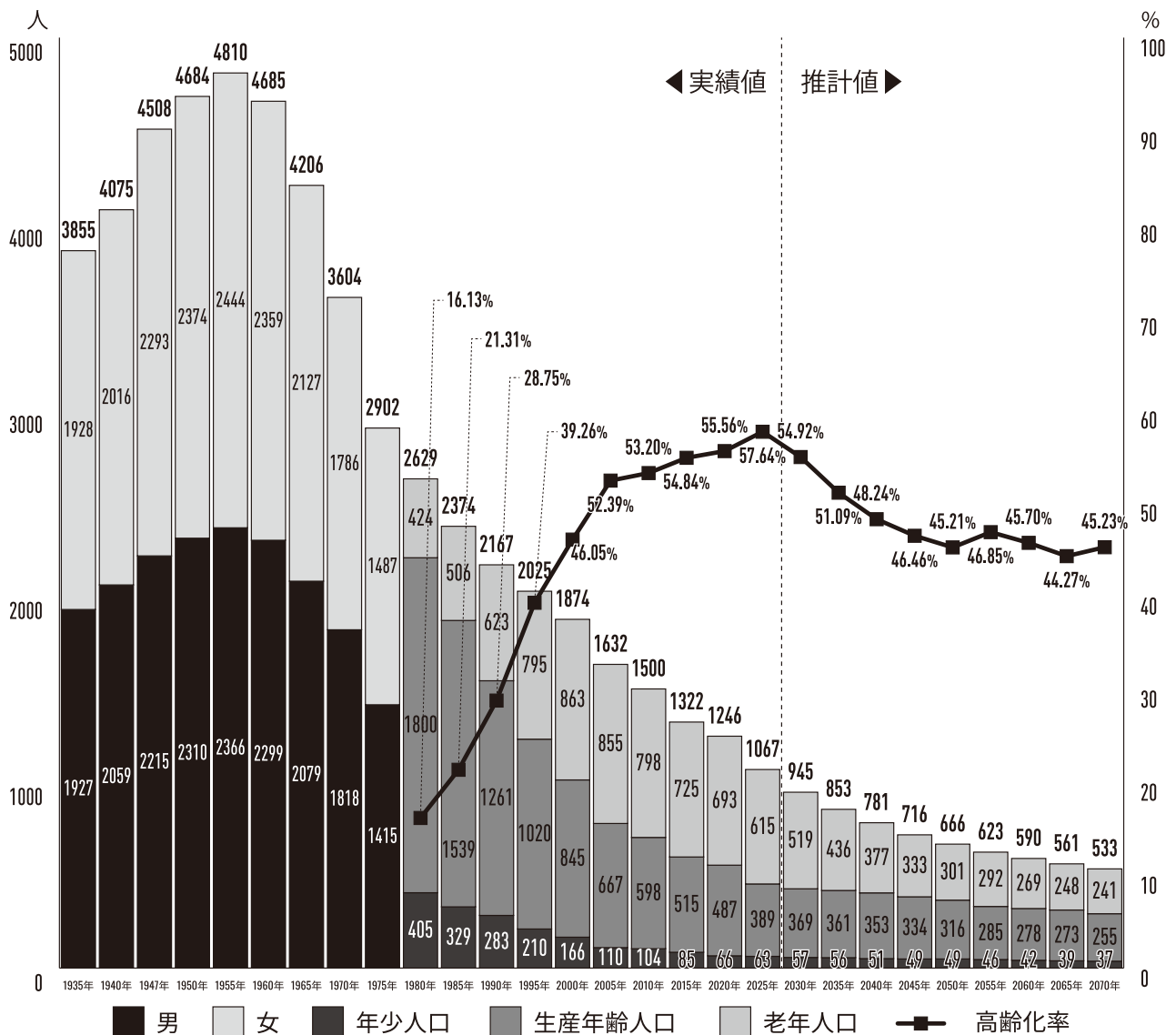
そのため、移住に限定せず、村を訪れ、関わり続ける「関係人口」を増やしていくことが、将来的な移住や地域の担い手の育成につながると考えられます。

今後は、多様な施策を展開しながら、村の魅力を高め、関わる人を増やすことで、人口減少のカーブを緩やかにしていきます。

平均人口減少数(直近30年)

## -36人/年

### 今後の人口の見通し(村独自推計)



※推計条件 社会増2人/年、合計特殊出生率1.5

# この5年で、何が変わったのか。

前期計画に基づき、各分野で施策を推進してきた結果、満足度は全体として一定の水準まで向上し、村民の生活環境の改善や施策の成果が着実に現れています。

前期計画から隔年で全村民を対象とする満足度調査を実施し、住民の方が感じる各施策の効果を満足度と重要度という形で測定してきました。

満足度調査の結果からは、施策の評価とは別に、行政に対して求められる水準そのものが年々高まっていることが明らかとなりました。

また、満足度と重要度の関係を見ると、「重要度が高いにもかかわらず満足度が低い」分野が存在しており、日常生活に直結する分野（買物環境、高齢者福祉、交通、空き家対策など）において、引き続き重点的な対応が求められています。

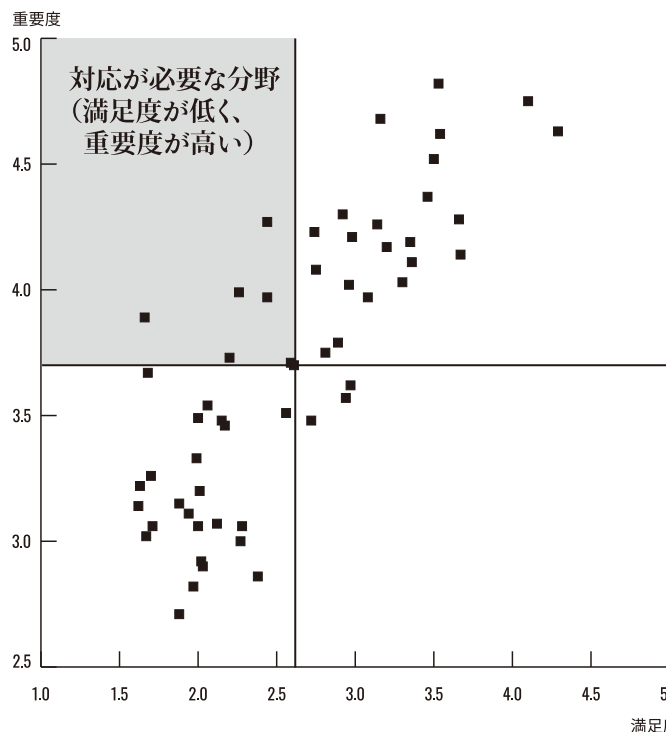
令和7年度

3.27 pt

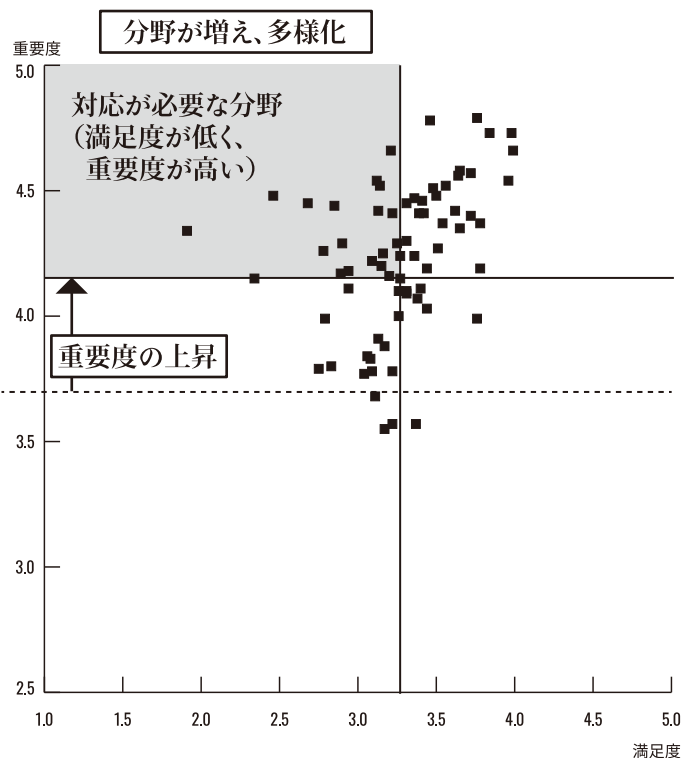
令和元年度

2.59 pt

令和元年度満足度調査結果(基準年)



令和7年度満足度調査結果



重要度は全体として上昇傾向にあり、行政ニーズは一層多様化・高度化している状況にあります。このことから、今後の村政運営においては、限られた資源の中で優先順位を明確にし、効果的・効率的に施策を展開していくことが、これまで以上に重要となっています。後期計画においても、データに基づく、政策形成やCAPDサイクルによる効果検証を引き続き行います。

## 基本目標 1

# 持続可能な協創のむら

地域の課題は、行政だけでは解決できません。

昭和村では、村民・事業者・団体など、多様な主体が連携し、新しい価値を生み出す「協創」を進めています。

それぞれが役割を持ち、支え合いながら地域をつくることで、持続可能なむらづくりを実現していきます。

### 施策項目 1

## 村とかかわる人を増やす

### 📍 現状・課題

人口減少により、地域の担い手不足や作業負担の増加、集落の維持の困難化が進んでいます。これまで移住促進に取り組んできましたが、移住はハードルが高く、定着しなければ地域への負担となる可能性もあります。

### 🎯 目指す姿

移住に限らず、継続的に村とかかわる人が増えています。

### 📋 具体的な施策

#### ✓ 多様な主体との連携

関係人口創出を観光にとどめず、地域と深く関わる仕組みを構築するため、行政区や各種団体など多様な主体との連携を図ります。

#### ✓ 交流人口拡大事業

関係人口の前段となる交流人口の継続的な拡大を図るため、観光や体験など多様な切り口による事業を展開します。

#### ✓ 関係人口創出事業

多様な主体と連携した事業を展開し、人的資源の補完や外部との交流を通じて地域の活気の創出を図ります。



### 施策項目 2

## 互いの役割と責任を明確にし、 共力の村づくりの確立

### 📍 現状・課題

人口減少に伴い、地域課題は複雑化し、行政だけで解決することが難しくなっています。地域の多様な主体が連携する必要性が高まっています。

### 🎯 目指す姿

多様な主体が役割と責任を持ち、協働して課題解決に取り組んでいます。

### 📋 具体的な施策

#### ✓ 多様な主体との連携

住民との対話の機会を充実させ、互いの役割を認識し、一方に依存しない体制による村づくりを推進します。

#### ✓ 地域の自主性の尊重

地区単位で将来のあり方や方向性を検討する機会を設け、将来ビジョンの策定を支援するとともに、主体的な取組を支援します。

#### ✓ 集落支援員による支援

集落支援員による巡回や話し合いの促進により、地域課題の解決に向けた支援を推進します。

#### ✓ 広報・広聴機能の強化

多様な媒体による情報発信と広聴機能の強化により、誰もが事業提案等を行える仕組みを整え、多様な主体と連携した村づくりを進めます。

## 基本目標 2 心地よく暮らせる村

日々の暮らしの質を高めることは、最も基本的で重要な取り組みです。

道路、交通、通信、防災など、生活基盤の整備を着実に進めることで、安心して暮らせる環境を整えていきます。

また、空き家対策や住環境の改善にも取り組み、多様な暮らし方に対応していきます。

### 施策項目 1

## ウェルビーイング(身体的・精神的・社会的良好性)の確立

### 🚨 現状・課題

生活環境の整備が進む一方で、心身の健康や人とのつながりなど、暮らしの質への関心が高まっています。単なる利便性だけではなく、総合的な満足度の向上が求められています。

### 🎯 目指す姿

身体的・精神的・社会的に良好な状態が保たれています。

### 📋 具体的な施策

- ✓ **身体的良好性の確立**  
健診受診率の向上と保健事業の充実により、疾病の早期発見・予防と生活習慣の改善を推進します。
- ✓ **アクティブシニア活動への支援**  
生きがいや社会参加の場の創出を支援し、高齢者コミュニティの活性化を図ります。
- ✓ **在宅での高齢者支援の充実**  
自宅での生活を継続できるよう、介護予防や自立支援施策を関係機関と連携して推進します。
- ✓ **社会教育・文化芸術活動・社会体育の推進**  
講座や教室の実施や文化・体育活動の推進により、生きがいの創出と精神的良好性の確立を図ります。
- ✓ **電子図書館の運用**  
郷土資料の充実や教育での活用を進めるとともに、将来的な共同運用を目指します。
- ✓ **地域・住民との情報の共有**  
地域課題等を把握し、住民との情報共有を進めることで、地域内で支え合う体制を構築します。
- ✓ **共生社会の構築**  
多様な課題を抱える人への相談体制と関係機関の連携を強化し、共生社会の実現を図ります。

### 施策項目 2

## 住民の足として使われる交通手段の構築

### 🚨 現状・課題

高齢化の進行により、移動手段の確保が重要な課題となっています。既存の交通手段だけでは、日常生活に十分対応できない状況があります。

### 🎯 目指す姿

日常生活において、誰もが移動に困らない環境が整っています。

### 📋 具体的な施策

- ✓ **自家用車に依存せず移動ができる仕組みの構築**  
からむんバスの安定運用を図りつつ、将来を見据えた持続可能な交通手段の確保を目指します。
- ✓ **地域公共交通計画の実践**  
地域公共交通計画に基づき調査・実証を進め、必要に応じて計画の見直しを行います。



### 施策項目 3

## 非常時の体制維持

### 🚨 現状・課題

自然災害の頻発により、災害時の対応力の強化が求められています。特に高齢者など要支援者への対応が重要です。

### 🎯 目指す姿

災害時においても、安全と生活機能が維持されています。

### 📋 具体的な施策

- ✓ 防災マップの更新  
浸水エリアや避難所の見直しを行い、大規模災害に備えます。
- ✓ 非常備消防施設・設備の適切な維持  
消火栓や消防団車両等の適切な維持管理により、有事に円滑に利用できる体制を確保します。
- ✓ 非常時の連絡手段の維持  
防災行政無線やラジオ等の情報伝達手段を適切に維持管理します。
- ✓ 非常時を想定した備え  
定期的な訓練や備蓄品の更新を行い、非常時への備えを継続します。
- ✓ 災害にも強い拠点施設の整備  
災害対応力の強化のため、新たな役場庁舎の整備を進めます。

### 施策項目 5

## 放置空家対策と空き家・空き物件の活用

### 🚨 現状・課題

人口減少に伴い空き家が増加し、管理不全による問題が発生しています。一方で、活用されていない資源としての側面もあります。

### 🎯 目指す姿

空き家が適切に管理され、地域資源として活用されています。

### 📋 具体的な施策

- ✓ 空き家の利活用と危険家屋の除去  
空き家の利活用を推進するとともに、危険な家屋の除去を所有者と協議しながら進めます。
- ✓ 空き家マップの整備  
空き家情報の可視化と相談体制の整備により、地域での課題共有と対応を促進します。

### 施策項目 4

## 雪とともに暮らす

### 🚨 現状・課題

本村は豪雪地帯であり、除雪や生活負担が大きな課題となっています。冬期の生活維持に対する支援が必要です。

### 🎯 目指す姿

雪がある中でも安心して暮らせる環境が整っています。

### 📋 具体的な施策

- ✓ 高齢者世帯への支援  
除雪支援や設備導入支援を行い、高齢者等が安心して暮らせる環境を整備します。
- ✓ 除排雪体制の維持  
村道等の除雪体制を維持するとともに、雪寒機械の計画的更新により体制強化を図ります。
- ✓ 冬期誘客の実現  
雪国資源やフィールドを活用し、冬期の観光誘客を推進します。
- ✓ 雪資源・伝統文化の活用  
伝統行事や雪資源を活用し、関係人口の拡大や新たな利活用を推進します。



「子どもが、村の未来になる。」

## 基本目標 3 生きる力を育む教育のむら

子どもたちは、昭和村の未来そのものです。

学校教育の充実に加え、地域と連携した体験教育を通じて、生きる力を育んでいきます。

また、子育て環境の整備を進めることで、安心して子どもを育てられる村を目指します。

### 施策項目 1

#### 特色ある教育システムの構築

##### 🔔 現状・課題

少子化の進行により、教育環境の維持と質の確保が課題となっています。教育行政に対する理解と評価が高まっています。一方で、小規模であることを活かしたきめ細かな教育の可能性もあります。

##### 🎯 目指す姿

地域資源を活かした特色ある教育が実現しています。

##### 📋 具体的な施策

- ✓ 保小中一貫教育の推進  
保育所・小学校・中学校の連携を強化し、多様な人と関わる学びの環境を整えることで、人間性や社会性を育み、「生きる力」の習得を推進します。
- ✓ 昭和村独自の特色ある教育の実現  
地域人財や資源を活用した学習を通じて、郷土を愛し、高い志を持ち挑戦する児童生徒の育成を図ります。

### 施策項目 2

#### 心地よく子どもを育てられる環境

##### 🔔 現状・課題

子育て世帯の負担や不安の軽減が求められており、安心して子どもを育てられる環境づくりが重要です。

##### 🎯 目指す姿

子どもを安心して育てられる環境が整っています。

##### 📋 具体的な施策

- ✓ 子育て環境の充実  
保育・放課後児童クラブ等の運営や経済的支援を継続し、働きながら安心して子育てできる環境の充実を図ります。
- ✓ 学習支援体制の充実  
複式学級支援や特別支援教育の充実により、児童生徒が等しく教育を受けられる体制を整備します。
- ✓ 新たな教育関連施設の整備  
保育所・小学校・中学校等が一体となった施設を整備し、村独自の特色ある教育の実現を図ります。
- ✓ 教育施設の適切な維持  
教育関連施設の計画的な修繕により、安全で安心な学習環境の維持を図ります。



## 基本目標 4 生業と誇りある仕事を生むむら

地域で生きるための仕事をつくることは、村の持続に直結します。

農業、特産品、観光など、  
地域資源を活かした産業の振興を図るとともに、  
新たな挑戦を支援していきます。

ここで働き、ここで暮らす。その選択ができる村を目指します。

### 施策項目 1

#### 文字通りの100年産地へ

##### ④ 現状・課題

農業は本村の基幹産業である一方、担い手不足や高齢化が進んでいます。生産基盤の維持とブランド力の向上が課題となっています。

##### 🎯 目指す姿

持続的に発展する産地としての基盤が確立されています。

##### 📋 具体的な施策

- ✓ 有機栽培等の取り組みの推進  
源流という地域特性を活かし、有機栽培など付加価値を加えた環境配慮型の営農体系の構築を推進します。
- ✓ 農業インフラの維持  
用排水路や農道など営農基盤の計画的整備と、地域主体による維持・修繕を支援します。
- ✓ 共同利用施設の維持  
集出荷場や育苗センター、ライスセンター等の共同利用施設について、安定稼働に向けた計画的な修繕・更新を行います。
- ✓ 新たな担い手の確保  
地域おこし協力隊や継承型就農などを活用し、多様な手法により担い手不足の解消を図ります。
- ✓ 担い手への支援の継続  
法人・集落営農・大規模農家など地域の担い手に対し、継続的に必要な支援を行います。
- ✓ 新規就農者への支援  
かすみ草栽培を中心に、新規就農者の確保と育成に向けた支援を行い、産地の維持を図ります。
- ✓ 農機具等のマッチングの実施  
離農者等の農機具・資材を新規就農者等へ仲介する仕組みを構築します。
- ✓ 農地の線引きと再生困難農地の利活用  
地域計画に基づき守る農地を明確化するとともに、再生困難農地の活用方法を検討します。

### 施策項目 2

#### 暮らしを支える地元事業者の継業と、新たな可能性を探る起業

##### ④ 現状・課題

地域事業者の高齢化や後継者不足が進み、地域経済の維持が課題となっています。新たな事業創出も求められています。

##### 🎯 目指す姿

既存事業が継続されるとともに、新たな事業が生まれています。

##### 📋 具体的な施策

- ✓ 商工業者への支援  
住民の生活を支える多様な業種の維持を図るとともに、村内消費の喚起や事業者ニーズの把握を通じて、継業・起業に向けた効果的な支援を実施します。
- ✓ チャレンジショップの継続  
交流・観光拠点施設を活用したチャレンジショップを継続し、住民が気軽に事業に挑戦できる機会の提供を図ります。
- ✓ 起業・継業・新規事業への支援の実施  
地域特性を踏まえ、事業者の意向を把握しながら、起業・継業・新規事業に対する支援を推進します。



### 施策項目 3

## いとなみを継ぐ

### 🚩 現状・課題

地域の文化や生業が担い手不足により継承困難となっています。伝統の維持が課題となっています。

### 🎯 目指す姿

地域の文化や生業が次世代へ継承されています。

### 📋 具体的な施策

- ✓ **からむし織体験生事業**  
からむし織の工程と農山村での暮らしを体験するプログラムを通じ、伝統文化の発信と関係人口の拡大を図ります。
- ✓ **からむし技術の継承**  
栽培や糸づくりなどの技術を次世代へ継承するため、生産量確保や技術伝承、関係団体への支援を推進します。
- ✓ **文化財等の保護と活用**  
文化財を良好な状態で次世代へ継承するとともに、活用を通じて保護意識の高揚を図ります。
- ✓ **地域の資源を活用した誘客**  
多様な地域資源を活かし、体験型観光に対応する人材育成と誘客を進め、交流・関係人口の拡大を図ります。

### 施策項目 5

## 多様な資源を活かす、美しい村をつくる

### 🚩 現状・課題

地域資源の活用が十分に進んでおらず、魅力の発信にも課題があります。

### 🎯 目指す姿

地域資源が活かされ、魅力ある景観と地域が形成されています。



### 施策項目 4

## 有害鳥獣被害の軽減

### 🚩 現状・課題

有害鳥獣による農業被害が深刻化しており、生産活動への影響が大きくなっています。

### 🎯 目指す姿

被害が抑制され、安定した農業が営まれています。

### 📋 具体的な施策

- ✓ **地域ぐるみでの鳥獣被害対策の確立**  
鳥獣被害対策に取り組む地区等への支援を行い、地域ぐるみでの対策を推進します。
- ✓ **鳥獣被害対策従事者の確保と支援**  
狩猟免許取得の支援や、危険を伴う作業に従事する人材への支援と体制整備を進めます。
- ✓ **捕獲用機材や防護柵の充実**  
防護柵や罟の導入支援に加え、デジタル技術を活用した被害防止対策の充実を図ります。

### 📋 具体的な施策

- ✓ **森林資源を活用した里山管理の推進**  
被害や大径木化が進行した民有林を中心に、間伐や更新を進め、里山の健全な循環の回復を図ります。
- ✓ **「美しい村」を支える文化・暮らしの継承と環境美化の推進**  
景観に加え、地域に根付いた文化や暮らしを村の価値として守り、次世代へ継承するとともに、環境美化の取組を推進します。
- ✓ **ごみの減量化とリサイクルの推進**  
分別の徹底と住民意識の醸成により、ごみを出さない暮らしへの転換を進め、ごみの削減とリサイクルを推進します。
- ✓ **循環型社会の形成に向けた新たな取組の検討**  
環境負荷の低減と地域資源の有効活用を両立した循環型社会の構築に向け、新たな取組の検討を進めます。

## 基本目標 5 先端的過疎への挑戦

人口減少という課題に対し、昭和村は「先端的過疎」という考え方で挑戦しています。

DXやIoT、データ活用により、地域課題の解決と効率的な行政運営を実現します。

過疎地域だからこそできる、新しい地域モデルの構築を進めていきます。

### 施策項目 1

#### テクノロジーの民主化

##### 🚨 現状・課題

デジタル技術の進展が進む一方で、高齢者などを中心に利用格差が課題となっています。

##### 🎯 目指す姿

誰もがデジタル技術の恩恵を受けられています。

##### 📋 具体的な施策

###### ✓ 公共インフラWi-Fiネットワークの運用

デジタルデバイドの解消を図りつつ、公共インフラ Wi-Fi を安定的に運用し、さらなる利活用を推進します。

###### ✓ デジタルデバイド対策の実施

スマートフォン・タブレット教室の開催や相談体制の整備により、デジタルに触れる機会を提供し、住民が気軽に活用できる環境を維持します。



### 施策項目 3

#### 実証フィールドとしての価値の創造

##### 🚨 現状・課題

地域の特性を活かした新たな価値創出が求められています。外部との連携が重要となっています。

##### 🎯 目指す姿

多様な主体と連携した実証の場として価値が高まっています。

### 施策項目 2

#### 先端技術を活用した各種施策の展開

##### 🚨 現状・課題

人口減少により、従来の手法では地域課題への対応が難しくなっています。

##### 🎯 目指す姿

先端技術が各分野で活用され、課題解決が進んでいます。

##### 📋 具体的な施策

###### ✓ 公共インフラWi-Fiネットワークの活用

デジタルデバイドの解消を図りつつ、Wi-Fi 環境を活用し、タブレット等による双方向通信や防災情報のマルチメディア配信など、各分野での活用を推進します。

###### ✓ 光ネットワークの安定的な維持

FM 告知端末や放送設備、幹線ネットワークの更新・保守を行い、通信基盤の安定的な運用を維持します。

##### 📋 具体的な施策

###### ✓ DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

暮らしを豊かにする手段としてデジタル技術を生活に浸透させ、防災・福祉・医療・農業・教育など各分野での活用を進めるとともに、デジタル情報格差の解消を図ります。

###### ✓ 実証フィールドとしての多様な主体との連携

村の特性を活かし、企業・教育機関等と連携しながら、地域課題の解決につながる技術や仕組みの実証を推進します。

## 基本目標 6

## 選択と集中の行政運営

限られた人材と財源の中で、最大の成果を生み出す行政運営が求められています。

EBPM(証拠に基づく政策立案)やDXを推進し、効率的かつ効果的な行政を実現します。

村民に寄り添いながら、持続可能な行政運営を目指します。

## 施策項目 1

## 行政情報の可視化

 現状・課題

行政の取組や成果が住民に十分に伝わっていない状況があります。客観的な指標に基づく把握が求められています。

 目指す姿

行政情報が可視化され、住民と共有されています。

 具体的な施策

 行政情報の可視化

事業の実施件数や参加者数、事業費などの情報を公開し、住民が事業の進捗や状況を把握できる仕組みを構築します。

 住民提案を促す仕組みの推進

行政情報を広く提供することで、住民からの事業提案や意見が積極的に寄せられる環境を整備します。

## 施策項目 3

## 持続可能な自治体経営の確立

 現状・課題

人口減少に伴い、財政基盤や行政体制の維持が課題となっています。

 目指す姿

持続可能な財政運営と組織体制が確立されています。



## 施策項目 2

## 事業の選択と集中

 現状・課題

限られた財源と人材の中で、すべての事業を維持することが難しくなっています。

 目指す姿

優先順位に基づいた効率的な事業運営が行われています。

 具体的な施策

 施策の効果測定

事業の有効性や効果を適切に測定・検証し、受益者視点と公平性のバランスを踏まえた事業執行を行います。

 事業の効率性の向上

外郭団体を含めた執行体制や手法を見直し、人口減少社会に適した効率的な事業運営を図ります。

 公共施設の適正化

老朽施設やインフラについて、必要性・優先度を踏まえた計画的な改修・更新を行い、選択と集中により効果的な整備を進めます。

 具体的な施策

 効率的・効果的な行政運営及び組織運営

デジタル技術の活用による業務効率化を進めるとともに、企画力・創造力を備えた人材育成と社内横断的な連携強化により、効果的な事業執行を図ります。

 長期的な財政の安定化

国・県の補助制度の活用などにより財源確保を図るとともに、経常収支比率の改善に取り組み、投資的経費を確保できる財政構造を目指します。

 地方公営企業会計の活用

上下水道事業等について経営・財政状況を適切に把握し、安定的な運用と財政の健全化を図ります。

# 次の100年へ

昭和村は、これからも変わり続けます。

しかし、  
変わらないものがあります。

それは、  
「ここちよく暮らす」という価値です。

この価値を守りながら、  
次の100年へと歩んでいきます。



## Toward the Next 100 Years

本特集は、第6次昭和村振興計画 後期計画の概要を記したものです。

全体版では、各集落の人口の見通しや、より詳細な満足度調査の結果などを記載しています。  
全体版をご希望の方は、ホームページからご覧頂くか担当係にお問い合わせください。

昭和村役場 総務課 企画創生係 TEL 0241-42-7717